

## 富山県民生涯学習カレッジ事業の「今後のあり方」 (総括表)

## (県の役割)

- 1 人材育成(講座講師養成、生涯学習ボランティア指導者育成)
- 2 情報提供・相談(学習情報の提供、コーディネート(講師紹介・学習相談等))
- 3 調査・研究(評価システム、ボランティア活動について等)
- 4 その他(ボランティア組織への支援等)

## (県民カレッジ)

	現 状	今後の方向(案)	その問題点( )と対応策( )	備 考
講座の開催 (本部)	・民間教育事業者開催の講座との競合を避ける方向での講座の精選を行った。 (パソコン、外国語などの講座を取り止め)	・県民カレッジ協力団体を中心としたボランティア組織に講座開催事業を移行する。	ボランティア組織への人的・経済的支援が必要である。 ボランティア・コーディネータ育成には時間がかかる 生涯学習団体協議会を中心とするボランティア組織の育成・強化と支援体制の整備を行う。 教職員OBを中心にボランティアとして活用	・ボランティア組織が現施設をそのまま利用する場合は施設の負担金(光熱費、清掃費など)が必要である。
講座の開催 (地区センター)	・民間教育事業者開催の講座との競合を避ける方向での講座の精選を行った。(センター講座の見直し、雄峰高校に特別講座を開講)	・併設する高校の授業を社会人が受講する「特別講座」を継続する。 ・センター講座等はボランティア組織に講座開催事業を移行する。	ボランティア組織が学校施設を利用する場合の施設管理等の問題がある。 県が学校とボランティア組織をコーディネートする教職員OBを中心にボランティアとして活用	
学習情報の収集・提供 学習相談	・学遊ネットの運営(情報収集・提供) ・学習相談(講師紹介、講座紹介、講座運営ノウハウの提供など)	・学遊ネットは機能の見直しなどの研究を行った上で、次期更新を検討する。	学遊ネットの機能を精選する必要がある。 学遊ネットの運用や機能について、他府県の状況等を調査	
映像での学習支援(講座の開催)	・民間教育事業者開催の講座との競合を避けるため、パソコン関係講座を取り止め、映像関係の講座のみとした。	・映像ボランティアを中心としたボランティア組織による自主開催へ移行する。	ボランティア・コーディネータの育成には時間がかかる。 機器、設備の更新が難しい。 映像ボランティアを中心とするボランティア組織の育成・強化 教職員OBを中心にボランティア活用	
映像での学習支援(映像資料)	・ビデオ撮影や映像編集・活用、映像関連情報の収集・提供、コンテストの開催 ・映像の貸出とブースによる視聴 ・ボランティア活動の支援、研修会等の開催	・ライブラリー機能及び映像制作事業については見直しを検討する。	機器、設備の更新が難しい。(機器の保守の限界、年々新しくなる機器、地上波デジタル放送(ハイビジョン映像)への対応	
学習交流と成果の発表	・学遊祭の開催、地区学遊祭の開催 ・高単位取得者の表彰 ・生涯学習団体の育成、交流の場の提供	・本部学遊祭は、自主開催へ移行する。 ・地区センター学遊祭は、学校との共催で行う。	ボランティア組織への人的・経済的支援が必要である。 地区においては、県が学校とボランティア組織のコーディネートを行う。	
調査研究事業	・県民のニーズや地域の特性に応じた事業を充実し開発するために行う。 (平成17年度テーマ)生涯学習情報提供ネットワークシステムに関する調査	・新たな課題に対応するため、当面は継続する。(ボランティア組織の活性化など)	ボランティア組織での調査研究事業の継続は難しいと思われる。 他府県の状況を調査し、事業の必要性を検討する。	

## 富山県民生涯学習カレッジ事業の「今後のあり方」(事業別)

## 1 学習機会の提供(講座の開催)

講座名(事業名)	事業内容・目的	17年度事業での変更点	備考
夏季講座 (本部、高岡)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外著名講師による講演会</li> <li>・講演を記録して叢書として発行し、県内の学校や図書館等に配布するとともに、県民や生涯学習団体の学習教材として広く活用されている。</li> <li>・叢書の発行、普及には県民カレッジ協力団体のボランティアが活躍している。</li> </ul>	富山会場・高岡会場各3回開催を各2回に縮減	
県民カレッジ「自遊塾」 (本部、地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア講師(県民教授)と受講者により運営する。県民の学習交流の場やサークルの育成を目的とする。</li> <li>・ボランティア講師の育成に貢献している。</li> </ul>	民間で広く行われている講座(例 ヨーガ ハーモニカなど)は実施しない。	
テレビ放送講座(本部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民に広く在宅学習講座を提供する。</li> <li>・富山県の風土や文化の広報に大きく寄与する。</li> <li>・放送終了後はビデオ教材として映像センターや地区センターで貸出をし、テキストとともにふるさと学習の推進に貢献している。</li> </ul>	放送時間帯の変更や放送回数の変更により費用を縮減。番組5本分を収録したDVDを学校と生涯学習施設に配布。	
生涯学習ボランティア講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習のボランティアについて理解を深めたい人を対象に、活動領域の紹介や実践などを行う。</li> </ul>	4講座すべて休止(市町村で類似の講座が開催されるようになったため)	
ボランティア・コーディネータ育成(本部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的にNPOやボランティアを中心とするカレッジ事業の運営を考えた場合、ボランティアコーディネートの能力を備えた人材の育成が急務である。</li> </ul>	(18年度新規事業として予定)	
人間探究講座(本部、地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生き方やあり方、ふるさと再発見などの分野から1つのテーマをセミナー形式(6回)で学習する。(14講座)</li> </ul>	市町村との棲み分けを図り、講座内容の見直しを行った。(1講座減)	
教養講座(本部、地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県生涯学習団体協議会に委託し、県内4地区毎にその地域のニーズを把握し、幅広いテーマで開講する。(5講座、各10回程度)</li> </ul>	市町村との連携を図り、講座内容の見直しを行った。	
センター講座(地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と高等学校の特色を生かした地区センター主催の講座</li> </ul>	市町村、民間等との競合をチェックし、より地域の特色をだした講座を開催(5講座減)	
特別講座(本部、地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の授業を社会人が一緒に受講する講座</li> </ul>	雄峰高校において県民カレッジYUHO講座を新たに開講(20講座増)	
学校開放講座(本部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立学校に委託して、学校の施設や人材を地域住民に開放して行う、学校の特色を生かした講座</li> </ul>	(変更なし)	
インターネット市民塾・県民カレッジ主催講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを通じて自宅や職場で、誰でも教え、受講できるシステム</li> </ul>	5講座開催	
県民カレッジ連携講座(本部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学習メニューを提供するため、計39団体(県・市町村・大学・企業)と連携し、233講座で単位認定や広報に協力して講座開設を支援。(数字はH16実績)</li> </ul>	市町村との連携強化 ホームページによる広報の充実	

## 2 学習情報の収集・提供、学習相談事業

講座名(事業名)	事業内容・目的	17年度事業での変更点	備考
とやま学遊ネット (室、本部)	・学習に役立つさまざまな情報を収集、提供している。 ・マイページによる双方向サービスや県内図書館の蔵書について横断検索ができ、講師情報はとくに充実している。	団体サークル情報の更新 生涯学習情報提供ネットワークシステムに関する調査研究	
学習相談 (本部、地区)	・講座、サークル、講師・指導者、ボランティアなど生涯学習に関する相談。 ・学遊ネットを活用し、市町村相談窓口の開設も支援。	(変更なし)	
学習メニューブック作成 (地区)	・県内の生涯学習情報をまとめてある。 ・年2回発行(各10,000部を、市町村窓口、県内小中高、公民館などへ広く配布)	ホームページによる広報の充実	
講座案内・地区センターだより	・講座案内(年2回)、地区センターだよりは各地区年4～5回発行	ホームページによる広報の充実	
広域学習サービス会議	・市町村、高等教育機関、県立学校、市町村視聴覚ライブラリー、民間等と講座開催や生涯学習関係事業について連絡調整を行う会議の開催	富山地区を含め、4地区で各1～2回開催	
視聴覚教材目録	隔年発行(1,500部) 学校、生涯学習施設に配布	(変更なし) 隔年発行(H16発行)	

## 3 映像での学習支援(すべて映像センター)

講座名(事業名)	事業内容・目的	17年度事業での変更点	備考
わくわくシアター・木曜シアター(優秀映像鑑賞推進事業)	ハイビジョン学習室を利用し、富山の貴重映像など優れた映像を広く県民に提供	昼夜2回行っていた木曜シアターの上映は昼1回とした。	
映像制作セミナー	・ビデオ撮影や編集の基礎から応用までを学び、映像ボランティアを養成する講座	他の機関等で実施していない映像制作に精選した。(24講座18講座)	
パソコン関連講座	・ホームページ作成、グラフィック基礎、プレゼンテーション講座など(12講座)	他の機関で開催しているため、すべて取り止め	
映像相談	ビデオ撮影や映像編集・活用、映像関連情報の収集・提供	(変更なし)	
教材の貸出・閲覧	16ミリ、ビデオ、DVDなどの映像の貸出とブースによる視聴	(変更なし)	
映像コンテスト	「ふるさと発見!ビデオコンテスト」や「自作視聴覚教材コンクール」を実施し、ふるさとの映像の収集や作品制作技術の向上に資する。なお、全国大会にも多く出品し、文部科学大臣賞など多くの賞を受賞しており、全国でも高い評価を得ている。	(変更なし)	
映像ボランティア育成・支援	撮影・制作指導。映像素材提供ボランティア(ビデオメイト)の支援や研修会の実施(講座での指導補助及び地域での活動支援)	(変更なし)	
素材映像・映像収集	富山の四季や各種行事、富山の貴重映像の収集と保存を行い、映像の次世代への継承と活用を行う。	(変更なし)	

講座名(事業名)	事業内容・目的	17年度事業での変更点	備考
16ミリ映写機定期点検	16ミリフィルムの破損を防止するため	県西部の市町村で実施	
操作認定講習	機器の適正な管理および機器の活用を促進するため	認定講習については要望があれば実施	
エルネットチャンネルとやま	通信衛星による文部科学省のネットを通して自作番組を全国放送する	実施 年4回放送	

## 4 学習交流や成果の発表

講座名(事業名)	事業内容・目的	17年度事業での変更点	備考
県民カレッジ学遊祭(本部)	講座受講者、学習団体、県民が集い、学習交流や情報交換を通して、生涯学習の推進を図る。(表彰式、記念講演、展示、発表会など)	経費の節減	
地区学遊祭の開催(地区)	講座受講者、学習団体、単位制高校の生徒が集い、学習交流や情報交換を通して、生涯学習の推進を図る。(記念講演、展示、発表会など)	経費の節減	
学習ボランティア活動(本部・地区)	カレッジメイト、学遊ビデオメイト、雷鳥会、自遊塾県民教授会、生涯学習団体協議会等のボランティア活動がある。県民の学習のお手伝いをするとともに、県民カレッジの運営に協力している。	各ボランティア組織の相互交流と活力の結集をめざす。	
カレッジ単位の認定制度(本部、地区)	主催講座、連携講座を共通して、講座の時間数により設定基準を設けて単位認定をする。 一定の単位を取得された方を表彰する。	(平成16年度より、個人情報の保護により年度末には希望者はデータを削除)	

## 5 調査研究

講座名(事業名)	事業内容・目的	17年度事業での変更点	備考
調査研究事業(本部)	県の生涯学習の中核機関として、県民のニーズや地域の特性に応じた事業を充実し開発するために行う。	(変更なし) (テーマ) 生涯学習情報提供ネットワークシステムに関する調査	

< ボランティア組織への移行 > について、考慮すべき項目

団塊の世代の退職による地域参加への対応(特に、教職員OBの活用促進)・・・教職員等の退職説明会等で、自遊塾講師、センター講座講師、映像関連講座のボランティア講師、県民カレッジのボランティア活動への積極的な参加の呼びかけが必要。

生涯学習団体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・県民カレッジの講座事業を担っていく県生涯学習団体協議会に対し、一層の支援が必要(ボランティア・コーディネータの育成)